

### 37 【ひょうすえ】

夏休みはとっくに終わっていたのに、というか、もう少したてば冬休みになりそうなのに、学校をさぼって中川で遊んでいた、村の中学生が二人溺れたのです。

この話は、この年一番の哀しい話題でした。

中川は荒れていたわけでも、増水していたわけでもない。

一人は何とか無事で、一人は溺死。

溺死した子の両親が、【ひょうすえ】のしわざだと泣きわめいていました。

無事の子も、【ひょうすえ】をみたと告白しました。

両親は、河童（かっぱ）のことを【ひょうすえ】とிட்டのでした。

村人の大半は河童の存在を信じていたから、役場での対策会議で河童退治をすることになって、自薦他薦で選ばれた屈強な村人十三人が、鍬（くわ）や鋤（すき）や鎌（かま）で武装しました。

河童を殺すなんてとんでもない。

と、ぼくは懐爺のところへ急いだのです。

懐爺は噂をきいていたので、（もしかすると特殊な能力で感知していたので）わざわざ説明する必要はありませんでした。

「せつないのう」

ぼくはなげきました。

「わたしにまかせなさい。河童を殺すと祟りがあります。殺そうとするだけでも災いがあります。みんなそれを知らないだけですから」

懐爺は身支度をして、出掛けました。

身支度といっても、風呂敷包みを一つ抱えて行っただけです。

ぼくは懐爺にいわれるままに、家で吉報を待っていました。

ようやく河童退治隊が戻ってきたので、役場に行ってみました。

みんな憔悴していました。

隊長が報告会をやっていました。

十三人全員で中川に入ったけれども、河童が川の流れを早くしたので目的地までなかなか行けないとのこと。

行こうとする勇敢な者は、河童の吐きだす放水にやられて川岸まで飛

ばされたとのこと。

十三人とも生きて帰れたのが不思議だけれども、帰り道に誰かが、この糞河童め、と罵ったとのこと。

それが河童にきこえたらしく、河童の笑い声を背にして、みんな逃げてきたとのこと。

けっきょく、これ以上犠牲者をだしたくはないから河童退治は中止とする、という報告会でした。

それは河童ではない、とぼくはいいそうになってやめました。

そしてまた懐爺のところへと急ぎました。

「やったのう」

ぼくは唾を飛ばしました。

「やりました」

懐爺は静かにいいました。

懐爺はずぶ濡れでした。

祠の入口で火をたいていました。

「かいじいは、【ひょうすえ】だったんか」

ぼくはききました。

「【ひょうすえ】にばけただけですよ」

淡々と、懐爺は答えました。

「ばけたんなら、やっぱし、おばけじゃ」

ぼくは嬉々（きき）としていいました。

懐爺は何も答えずに、いつまでも焚き火で身体を乾かしていました。

ぼくも焚き火にあたりながら、こんなことをきいてみました。

「わしはどうして、ゆうめいなおばけに、あわんのじゃろ」

「有名なおばけですか」

懐爺は苦笑いしました。

「【ひとつめこぞう】とか【のっぺらぼう】とか【ろくろっくび】とか【からかさおばけ】とか【むじな】とかさ」

ぼくは町の見世物小屋や、お化け屋敷で見物したおばけの名を並べました。

「有名なおばけは忙しいもんですから、辺鄙（へんぴ）な村へはなかなか来てくれません」

「せつないのう」

莫迦莫迦（ばかばか）しい気もしました。

「でも名前のないおばけもいるんですから、名前があるだけましではありませんか」

「なまえのないおばけは、せつないのう」

「まったくです。もしそういうおばけがでたら、二人で名前をつけてあげましょう」

「ゆうれいもみたいのう」

ぼくは強がりを行いました。

「幽霊は人間の霊魂（れいこん）ですから、おばけよりもおそろしい。みない方がいいですよ」

「みたいのう」

ぼくは嘘を行いました。

「それならわたしがそのうち幽霊になりますから、そしたら金ちゃんのところにてあげますよ」

めずらしく懐爺は、真面目な顔で行いました。

「やくそくじゃ」

「約束です」

ぼくは懐爺の汚い指と、指切りげんまんをしました。

それから半年して、溺死したこどもに、妹が産まれました。

でもその赤子には、両手両足に水掻きがついていました。

「【ひょうすえ】の子じゃ、殺せ殺せえ」

と村の大人たちはわめきました。

この村ではかつて、水掻きがついて産まれた赤子を、殺したことがありました。

とんでもないことで、とんでもないことに、その赤子を埋めた裏山が土砂崩れして、赤子の一家全員が、亡くなっていました。

懐爺は、ぼくにいわれる前に、赤子のところへ行くと、すぐに手術をして、赤子の水掻きをとりぞいたとのことです。

もう誰も、

「【ひょうすえ】の子じゃ、殺せ殺せえ」

とはいわなくなりましたが、懐爺にいわせると、

「ないしょだけれど、それでも【ひょうすえ】の子」  
とのことだそうです。